



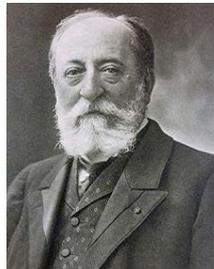
## 南葵音楽文庫ミニレクチャー

### チェロの名手ホルマンの来日 頼貞のホルマン宛て招請状から

美山良夫

2018年9月15日(土) 11:00 南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

1921年5月パリ チェリスト ホルマンのすすめで徳川頼貞サン=サーンス宅を訪問



サン=サーンス 1895頃

撮影：ナダール写真館

それから翁は言葉を續けて、自分は前から一度日本に行つて見たいと思つてゐた。けれど、もう歳が歳だし、身體も弱くなつたので行かれさうもない。——翁はその時大病から漸く癒つたばかりであつた。——然し自分の親友であるこの——と云つてホルマン翁を指さして、『ホルマン君などは是非日本を訪ねるべきである』と言つた。そして今度はホルマン翁に、『是非貴君は僕の代りに行つてくれ給へ』と云つた。後日、ホルマン翁が日本へ來ることになつたのも、この時の話がそもそもの動機なのである。(徳川頼貞『蒼庭楽話』)

南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内

和歌山市西高松 1-7-38

tel.073-436-9500

#### J.ホルマン 1852-1927

オランダ生まれのチェリスト。ブリュッセルでセルヴェに師事、その後パリ、ペテルブルクで学ぶ。1875年パリでデビュー。マイニンゲン宮廷楽団のソロ奏者を経て1887年パリに戻る。以後世界各地を演奏旅行。1916年パリに定住。多くの作曲家から作品の献呈をうけ、親友サン=サーンスはチェロ協奏曲第2番、《ミューズと詩人》を捧げている。1923年頼貞の招きで来日。1927年1月パリで没し、故郷マーストリヒトに埋葬。残された楽譜は頼貞が受け入れ、1000点余が1928年ごろ到着。一部分を南葵音楽文庫閲覧室に展示中。初公開。

ホルマン BNF の Gallica より



頼貞とニューヨークにいたホルマンの間で調整、南葵楽堂などでの演奏会実現へホルマンに送った手紙の控えと思われるタイプ打ちの書面残存。1923年3月20日横浜港着。22日演奏披露、歓迎演奏会(南葵楽堂)は4月7日を28日に延期。



プログラム(読響所蔵)

ホルマンと徳川頼貞夫妻 1923年 和歌山県立博物館所蔵喜多村進関連資料より

南葵音楽文庫が所蔵するホルマン文庫の概要 すべて楽譜、1970年頃いったん整理、簡単なリスト作成。  
内容 作曲家がホルマンに献呈した作品の自筆楽譜、署名付き印刷楽譜、初演のための試し刷り楽譜、ホルマンが自らの演奏のために筆写(一部改訂)した有名なチェロ曲、その自筆スコア、自筆パート譜のセット(例：ブルッフ《コル・ニドライ》)、自身の演奏のために書き込みをした印刷楽譜、伴奏者のために用意し頻用されたピアノ譜、徳川侯爵に献じた作品の印刷楽譜、自作のチェロ作品の自筆楽譜(未出版含む)や印刷楽譜、自作の歌曲、未完成作品の草稿(自作は40点で現在目録作成中)。